

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

毎年、近所の田に水が張られるとツバメがわが家の軒先に「泥とわら」を運び、巣を作ります。天敵のカラスなどの外敵からひな

を守るために人目につきやすい場所で営巣するためだ。ツバメは虫を食べる益鳥のご利益が有るためか、ツバメが巣をかけた家には幸福が訪れると言われている。訪れを毎年楽しみにしている。

今月、国連

は世界人口デーに合わせ

せて今年11月半ばまでに世界人口が80億人に達すると世界の人口を公表した。多くの国で出生率が低下しているが、世界人口は2080年代には約104億人となるが65歳以上の割合は22年の9・7%から50年には16・4%

人口減社会での教育は最優先課題だ

に上昇するとの推計だ。しかし日本の実情は厚生労働省の人口動態統計で、出生数から死亡数を引いた人口は過去最大の約60万人が自然減。出生数も6年連続の過去最少の84万人

掲載された。県内の全市町村別の数値も掲載され大北地区では2010年5311人から2020年には3789人の1522人の減、10年間で池田町と白馬村の児童生徒が減少したとの結果だ

徒の学習機会の確保を最優先に考えるべきなのだろう。これと並行して定住人口の増加への取り組みも重要な課題だ。行政組織内に専門部署設置の対応も急務だ。



イベントで農道ランニング中の参加者。自然を楽しむ笑顔が素敵だ

この驚きの内容だった。7月中旬に信濃毎日新聞の一面に「小中生100万人3000校減」少子化の影響で、2010年から2020年の10年間で小中学校に通う児童生徒が大幅に減ったとの記事が

た。今後も人口減少傾向が続くと予想されている。まずは市町村内での統廃合や小中一貫校の義務教育学校の対応は急務だ。統廃合には地域と学校教育のつながりの歴史も長く異論も多いだろうが、児童生

徒の学習機会の確保を最優先に考えるべきなのだろう。これと並行して定住人口の増加への取り組みも重要な課題だ。行政組織内に専門部署設置の対応も急務だ。

ウクライナでの戦火が収まりそうにない。伝えられる情報は悲惨そのものだ。6月に挙行された沖繩全戦没者追悼式で平和の詩「こわいを

みたく、ずっとポケットにいれてもっておくぜったいにおどさないようにこの詩の内容。ゆっくりと、言葉をかみしめるようなメッセージ。セージが戦争当事者に届いてほしいと願ってしまっ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)